

# 分析を目的とした燃料デブリ等の構外輸送の検討状況について

2021年8月18日

**TEPCO**

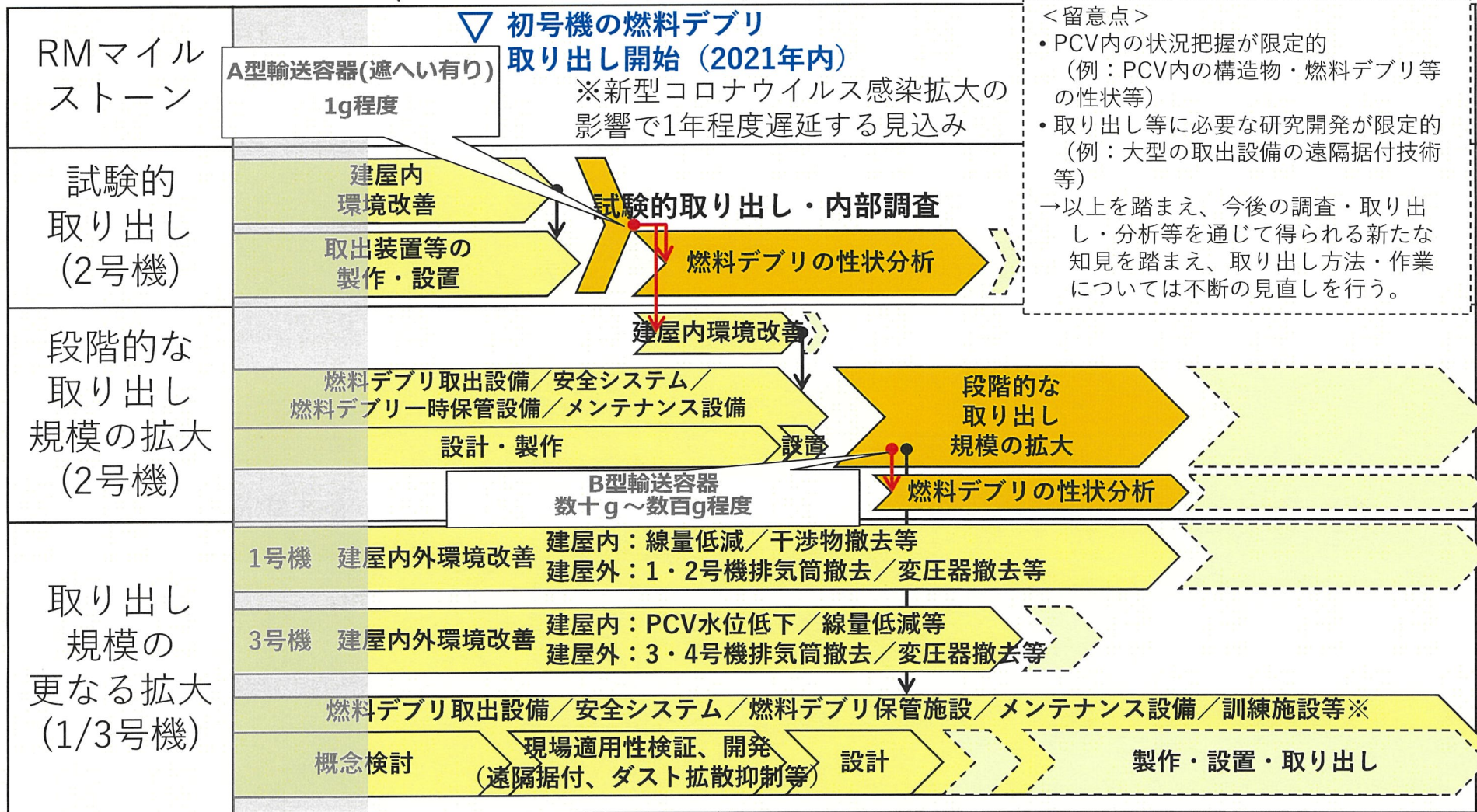
---

東京電力ホールディングス株式会社

## 1. 背景

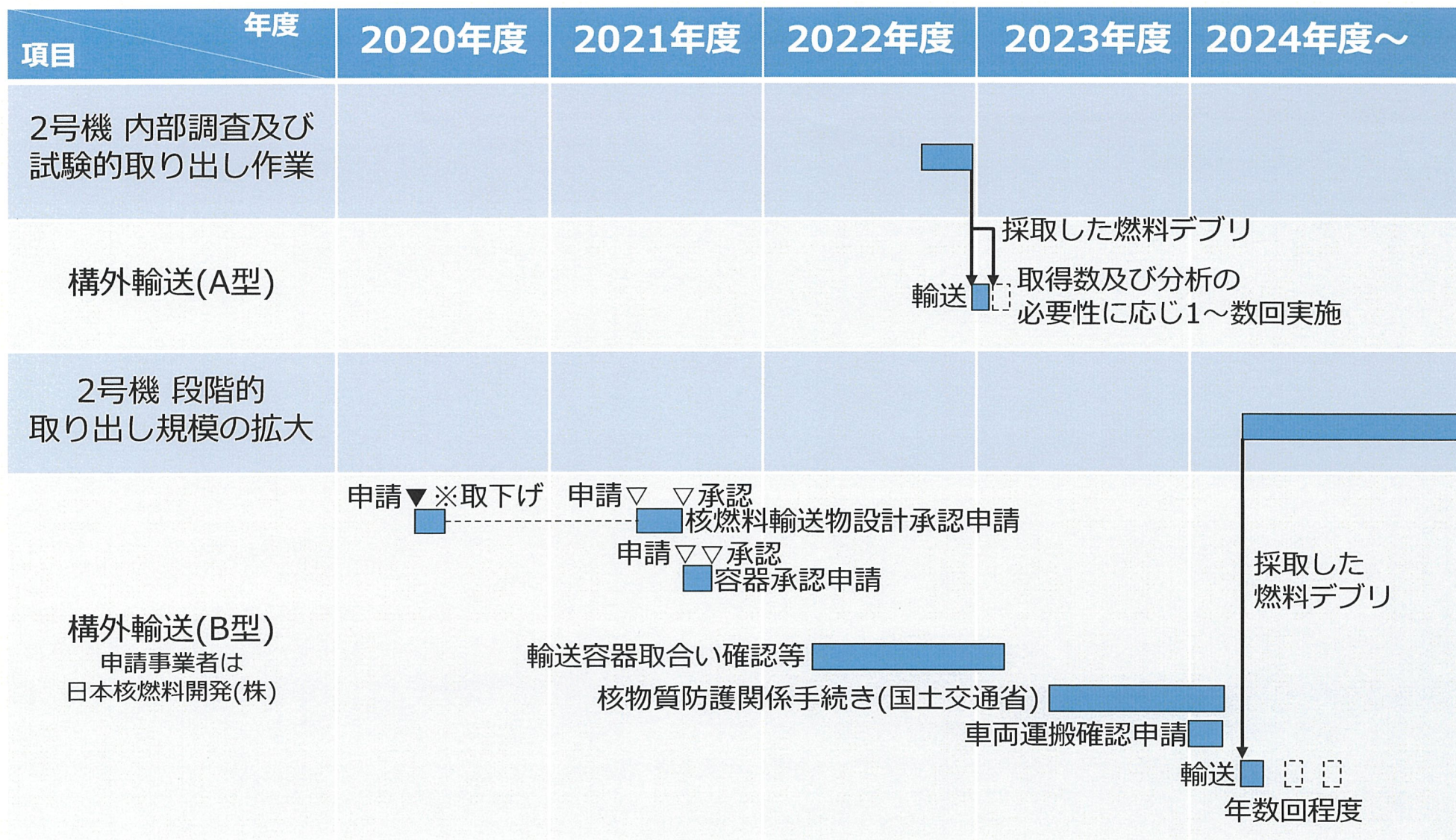
- 福島第一原子力発電所（1F）2号機の試験的取り出し作業以降、燃料デブリの取得を予定している。
- 取得した燃料デブリについては、適宜分析を進め、性状を把握することにより、燃料デブリ取り出しの各工程（取り出し、収納、移送、保管等）の検討に活用したい。
- また、茨城県内の既存施設での分析を通じて得られる経験については、放射性物質分析・研究施設第2棟における分析にも活用を予定。
- 本資料は、燃料デブリの既存施設への構外輸送について概要をお示しするもの。

## 2. 燃料デブリ取り出し工程と構外輸送(廃炉中長期実行プラン2021)



※3号機を先行して検討を進め、1号機に展開することを想定

### 3. 燃料デブリの構外輸送の概略スケジュール



※今後の工程（許認可手続き含む）は、現在検討中の案であり、現場作業の進捗等に伴い変更の可能性があります。

## 4. 燃料デブリの構外輸送に用いる輸送容器等について

- 法令に従い収納物の放射エネルギーに応じた輸送容器を用いる。
- 試験的取り出しで得られる燃料デブリは1g程度であり、十分な遮へいを有するA型輸送容器で輸送することを予定。
- 段階的取り出し規模の拡大(2024年度以降)では、数十gを超える燃料デブリが取得できる可能性があることから、B型輸送容器を使用することを予定。
- 試験的取り出し、段階的取り出し規模の拡大のいずれの段階でも、輸送は年数回程度。
- 燃料デブリの試料、残材（返却不能となったものは除く）は分析が終了し分析ニーズがなくなれば1Fに返還される。
- 輸送先は、既に少量の燃料デブリ取扱い許可を受けているNFD、JAEA（東海・大洗）その他の、燃料デブリ分析に必要な許可を取得した施設の中から、分析目的に適した施設を選定する。



A型輸送容器  
(遮へい無し) の例



A型輸送容器  
(遮へい有り) の例



B型輸送容器  
(申請予定のもの)